



《将来に向けた取組方針》

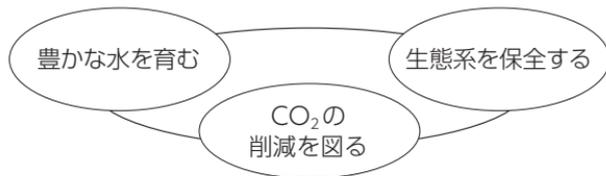
三協立山グループは、2021年に『サステナビリティビジョン2050 Life with Green Technology ～「環境技術でひらく持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～』を掲げ、サステナビリティ活動を開始しました。環境をテーマとするマテリアリティに、温室効果ガスを削減する「気候変動対応」、事業の主原料であるアルミニウムをはじめとする「資源の有効活用」を挙げており、取り組みにあたっては自然資源利用と環境負荷において生態系の健全性を損なわないことに配慮したうえで活動を行っています。また、三協立山グループは北陸地域に生産工場を有しており、2013年より富山県が推進する「企業の森づくり」に参画し、この地域の豊かな自然を守る活動を続けています。

《具体的取組み事例》

ツインリーフの森づくり活動

- ・2013年富山県高岡市と「地域の植生にあった森づくり」に関する協定を締結

〔目的〕・高岡市域における豊かな森林を守ることで、次のことを推進する。



〔活動〕・「ツインリーフの森づくり活動」として、三協立山グループ社員とその家族によるボランティアで植樹と維持管理を行う。

- ・参加者 のべ1311名（～2023年4月）

〔植林本数〕 2,500本



苗木植え



ツル切り



「ツインリーフの森」
(富山県高岡市)

2013年から5年間で2500本の広葉樹の苗木を植え、その後は育成活動として苗木に絡みついたツルを切る作業などを行っています。

《今後の課題》

・グループ事業における生物多様性等への影響の特定と対応策

・サプライチェーンへの拡大